

## あなたのまちの“協力店” ちょこっとこぼれ話 當麻商店

福祉だより3月1日号に  
掲載しきれなかった  
エピソードです。

恩多町の名所“水車宛”を活用していたお店！

福祉だより記事には、「今のかたちになって創業60年です」と掲載して  
いましたが、実は、その歴史はとても長いのです！

1782年（天明2年）に水車が造られてから1951年（昭和27年）まで、  
水車を使って麦や米を搗精（玄米などの穀物の外皮を取り除く加工）していたそうです。

水車が造られた当時のお店…

酒造米（日本酒の醸造に用いられるお米）の精米をお仕事としていました。

その後、田無や保谷など近隣農家の得意先から麦を預かり、精麦することも多かったそうです。

運送方法も、大八車（木製の人力荷車）→ 馬 → リアカー → オートバイ・車 と変わり、  
道も徐々に舗装されていきました。

この水車について…

水車＝松、芯＝樺、歯車の歯＝樫

大きさは“子どもが両手を広げて8人分くらい”

山形の水車大工さんが造って下さり、沢山の方々がつないで、  
つなげてくれたおかげで水車が回っていました。

『ありがとうございます。公園になって、水車、回ってます。』

回転の速さは、“1分間に16回転がベスト”です。

ただ、水車の操作は機械ではなく、水の音を聴き、板の上げ下ろしで水量を調整していました。

これぞ、神技、職人技です！

店長の當麻さんの趣味・特技は、観葉植物、楽器（パーカッション）演奏、料理など多岐にわたります。

また、書道を習っていた経験を活かし、店内の張り紙はご自身で書かれていました。

『いま、こうしてあるのも、見えないところで繋がっている、繋げてくれた沢山の方々のおかげです。“自分”に  
繋がっている全てに、ありがとうございますを伝えたいです。私も次に繋げる何かになれていたら良いなと思っています。』

明るく、あたたかい心の持ち主でした。

驚きのお話も沢山教えていただき、ありがとうございました。

これからも宜しくお願い致します。



以前の當麻商店の写真

お店の奥には當麻さんが可愛がって  
いる観葉植物さんたち



パーカッションの練習も  
見せてくれました

取材：まちづくり支援係恩多町担当